ふるさとの昔話

江尾のおしゃごっさん

江尾地区の中ほどに、土地の人々が「おしゃごっさん」と呼んでいる小さなほこらがあります。「おしゃごっさん」とは、昔、田んぼの広さをはかるために使った間竿をここに納めて祭ったと言われています。

昔はどの村にも必ず1ヵ所はあったと思われますが、今ではほとんど残っていません。

語源はお尺もち

おしゃごっさんは、おしゃもちさんがおしゃごっさんになまったもので、その語源はお尺もち、おしゃもちと言われています。

「お尺」とは、昔、年貢を取り立てるために土地を測量（検地）したとき使った間竿や間縄のことを「お尺」と言ったので、その間竿を持って歩いたからおしゃもちと言ったようです。江戸時代の検地は、大変厳しく検地役人が村役人を使って厳重な調査をしました。少しでも隠し田んぼでもあると、重い罰を受けたり、はかり間違いがあったりすると、ときには首を切られたりすることがありました。そんなことから、村中でお尺を大切にし、検地が無事済んだあと、間竿に感謝の意を込めて、神に祭ったと言います。

毎年必ず供養を

原田 ろくさん

土地の人たちから「しゃぐじ」と呼ばれ、代々おしゃごっさんの供養をしている栗田家。栗田家のおばあちゃんろくさん(76歳)は、「いつからうちで供養し始めただかしらないけんど、祭ってやれば家が栄えると言い伝えがあるもんで、毎年、正月、5月、9月には必ず供養してるよ。」と語ってくれました。

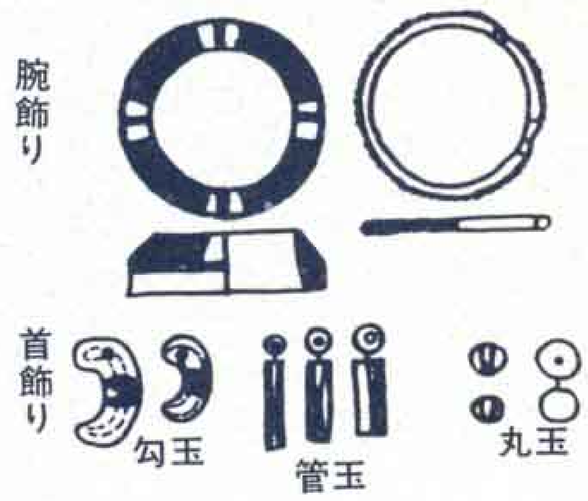
地名の由来

境

境村の境というのは、須津の庄と阿野の庄との境という意味なのか、富士郡と駿東郡との境なのか明らかではありません。江戸時代の初め頃までは春山川を境として西は富士郡、東は駿東郡でしたが、中西久佐衛門らが開発した土地の所属のことで争いが起こった元和8年(1622年)以後は、万騎沢を境にして駿東郡に属しました。

古墳のはなし ⑪

古墳と祖先の生活



「首飾り」は、今のネックレスで、勾玉・管玉・丸玉などの玉をつなぎ合わせてつくられています。玉の材料はひすいや碧玉・めのう・水晶などからつくられています。市立博物館には比奈の「東坂古墳」から出土した玉を連ねて復元した首飾りが展示してあります。

また、東坂古墳から出土した「琴柱型石製品」は、ペンダントとして使用されたといわれます。

「腕飾り」は今のブレスレットのことで、古墳時代のものは普通「釧」と呼ばれています。

「釧」には石でつくられた「石釧」と貝でつくられた「貝釧」があります。「石釧」は、「イモガイ」を横に切った形を模してつくられています。市内では碧玉製の「石釧」が東坂古墳から出土しています。また、このほかに「鍬形石」や「車輪石」と呼ばれる腕飾りもあります。

こちら編集室

ことしもあとわずかとなりました。

本市にとって、ことしは新病院の完成、潤井川大橋の開通、それに新幹線富士駅の設置決定とビッグな事業が続き、躍進する本市を象徴しているかのような年でもありました。

発　行・富士市役所　富士市永田61－1　☎51－0123
編　集・総務部広報広聴課

人　口　214,696人　男　106,760人　女　107,936人
世帯数　60,735世帯　（11月1日現在）